

## ●出丸地区 まちづくり懇談会記録

平成26年10月24日(金)午後7時30分～8時55分 (出丸公民館)

	質問事項	答弁要旨	答弁者
①	<p>自主防災組織の立ち上げにあたり、自警団を自主防災組織の「消火班」として整理してきたが、出丸地区では、毎年12月に自警団と消防団の合同訓練を実施してきた経緯がある。</p> <p>地域としては、現在ある消防ポンプが壊れるまで残していきたいと考えており、今年も含めて、今後はどのように訓練を実施したらよいか、町の考え方を伺いたい。</p>	<p>これからは、自主防災組織が主体の訓練になると認識して実施していただきたいと思えます。そのなかで従前のような消防ポンプの訓練も必要であるならば、自主防災組織の訓練の一部に組み込んで実施していただきたいと考えます。</p> <p>自主防災組織は、有事の際に活動できなければならないので、いざという時に訓練を行っていない方がやるのも危険が伴います。町としては消防ポンプを含めて機械器具の操作を皆さんに習得してもらいたい、維持していくことが重要と考えております。</p>	町長 総務課長
②	<p>健康診断を保健センターやコミセンなどで実施しているが、会場までの距離が遠すぎて受診できないという声を聞いている。今後、高齢者が増えると受診したくてもできない人が増えると思う。</p> <p>以前のように、各公民館で実施することはできないか。</p>	<p>現在実施しております健診は、メタボリックシンドローム対策の特定健診になったことから、検査項目の増加や健診器具の設置などで会場にある程度の広さが求められるようになったことや、健診を実施できる医療機関が限られているため、健診日程・会場を町独自では決められないなどのことから、現在のような形に変更させていただき実施しております。</p> <p>ご意見の主旨は承知いたしましたので、より良い対応方法を検討してまいります。</p>	町長 事務局
③	<p>国保医療費が上昇しているという説明があったが、もう少し詳しくお願いしたい。</p>	<p>町の特徴としましては、重篤化してからの受診の方が多く、人工透析を行う方も増加傾向となっており、高額医療費の対象となる方が多い点が挙げられます。</p> <p>また、医療費全体としても平成23年度までは毎年1割程度増加していた状況が続いておりましたが、平成24年度以降は、医療費の伸びが緩やかになってきました。具体的に検証・分析にはまだ早いと思われませんが、平成22年度から早期発見・早期治療ということで健診事業に力を入れて進めてきたものがあるのではないかと考えております。</p> <p>今後も予防・早期発見に努め医療費縮減に努めてまいりますので、ご協力をお願いします。</p>	町長 事務局
④	<p>現在、当地区では火の見櫓を残すか撤去するか話し合っていますが、結論が出ない状況である。</p> <p>文化財として残すような方法はないのか。</p>	<p>老朽化した火の見櫓については、残すか撤去するか他の地区でも課題になっている状況があります。</p> <p>文化財として残す場合には町の文化財保護審議会で審議・認定される必要があります。</p> <p>火の見櫓の文化的価値については、大正時代頃までのものは、文化的価値が認められることがあるそうですが、昭和以降のものは時代も新しいため、難しい状況のようです。</p> <p>現在のように防災無線が整備された状況では、火の見櫓が持つ本来的な消防機能としての使命は終了したと見るべきだと思います。</p> <p>地区として火の見櫓を残していく場合には、町も若干の支援は出来ると思いますが、倒壊の防止措置など根本的な対策については、当然ながら地区の方々にも負担が発生してまいりますので、良く話し合って納得のいく結論を出していただければと思います。</p>	教育長 総務課長